

5. まとめ

本研究では、木造3階建て学校に関して、実大火災実験を実施して防火上の検討課題を明らかにし、その対策の有効性を確認することを主目的として3回の実大火災実験を実施した。

1回目の実大火災実験（予備実験）は、1時間準耐火構造の主要構造部として学校に適した仕様のうち基本的なものについて平成22、23年度に部材実験により防耐火性能を把握したもので構成した実験建物を用い、教室実験で木質内装の初期火災性状を把握した上で、木3学の避難安全・延焼防止・消火活動支援の観点からの課題を検出するため、平成23年度に予備実験として位置づける実大火災実験を実施した。

2回目の実大火災実験（準備実験）は、予備実験により防火基準策定に向けた課題を抽出し、再び部材、教室規模実験により技術的な検討を進めて、平成24年度にその効果を検証するために実施した。

3回目の実大火災実験（本実験）は、これらの結果に基づいて防火基準案を検討し、その妥当性を確認するために平成25年度に実施した。

これらの3回の実大火災実験の結果から、火災初期における外壁開口部を通じた早期の上階延焼防止および防火壁による延焼防止に関する防火基準案の妥当性が確認された。